

相手をゆるすという生き方へ

ルカによる福音 6:39-45

(そのとき、イエスは弟子たちに)たとえを話された。「盲人が盲人の道案内をすることができようか。二人とも穴に落ち込みはしないか。弟子は師にまさるものではない。しかし、だれでも、十分に修行を積み、その師のようになれる。あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって、『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。

悪い実を結ぶ良い木はなく、また、良い実を結ぶ悪い木はない。木は、それぞれ、その結ぶ実によって分かる。茨からいちじくは採れないし、野ばらからぶどうは集められない。善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。人の口は、心からあふれ出ることを語るのである。」

説教

盲人は盲人を案内できない。

自分の目の中の丸太に気づかない。

悪い実を結ぶ良い木はなく、良い実を結ぶ悪い木はない。

人の口は、心からあふれでることを語る。

まるで「日めくりカレンダー」にでてきそうな警句が続きます。

わたしたちはこれらのことばを道徳とするのではなく、イエスのいのちのことばとして聞いてみましょう。

あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づか

ないのか。自分の目にある丸太を見ないで、兄弟に向かって『さあ、あなたの目にあるおが屑を取らせてください』と、どうして言えるだろうか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目にあるおが屑を取り除くことができる。ルカ 6:41-42

わたしたちは他人の欠点はよく見えますが、自分の欠点は見えにくいものです。まずは自分の欠点を取り除いてから他人のことに注意を向けなさい、とイエスはおっしゃっているのでしょうか。しかし、なかなか自分の悪いところ、欠点をなおすことはできないのは誰もが経験済みです。逆に言えば、自分の体と心の弱いところ、辛いところに気づくこととき、相手に対しても優しくなれるかもしれません。

「偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け」

イエスさまのこのきついお言葉は、自分の欠点を裁く、なおす、ではなくその欠点を受け入れるということだと解釈したらどうでしょう。

自分の欠点を受け入れられるなら、相手の欠点も受け入れることができそうです。

自分の目にある「丸太」を受け入れることは易しいことではありません。同じように、相手の欠点を受け入れることは難しいことです。

もっとも、これ以前に自分のなかにまさか丸太があると思っていないのかもしれませんが。また、たいしたことでもないことをわざわざ欠点だ、これこそわたしの丸太だなどと呼ぶことはやめましょう。わたしたちは善人ぶるのではなく、偽善者であるわたしたちの「目のなかの丸太に気づかせてください」とイエスさまに祈り願い、そして単なる道徳としてではなくいのちのことばとして福音を聞き入れましょう。